

特集 理系のための業界研究 ―IT業界の展望

個人のパフォーマンスが 大きく会社を動かす IT業界

IT業界での仕事と言えば、システムエンジニア(SE)やプログラマーといった職業に対するイメージが強いかもしれないが、実はさまざまな業種・職種が存在する。プログラマー以外にも理系の強みを活かせる仕事があり、想像以上に懐の深い業界なのだ。

IT業界にはどんな業種・職種があり、どのような能力が求められることになるのか。そしてIT業界で働くのなら、どんな心構えで臨むべきなのか。人材業界で働くプロの視点を交えながら紹介していく。

イメージ以上に奥が深い IT業界の仕事

IT業界と一口に言っても、そこで行われているビジネスはさまざま。Webサイト/サービスを生み出すインターネット企業、OSやアプリケーションなどのソフトウェアを開発するソフトウェアベンダー、パソコン・サーバ・ネットワーク機器などをつくるハードウェアベンダー、携帯電話やブロードバンドなどの通信インフラを担う通信会社、企業向けのシステム開発などを請け負っているシステムインテグレーター(Sier)といった企業がIT業界で

活躍している。

代表的な職種としてはプログラマーが挙げられるが、企業向けシステム開発を取り上げてみると、その中でも幾つかの職種が存在する。企業経営まで踏まえてシステム全体を設計する「上流工程」と呼ばれる部分を担うITコンサルタント、システム開発の作業進捗をマネジメントするプロジェクトマネジャー、システム設計担当のシステムエンジニア(SE) というような職種に分かれ、SEの設計に沿ってシステムをつくっていく狭義の意味でのプログラマーという仕事もある。

さらに、ネットワークの構築・運用を専門とするネットワークエンジニア、データベースまわりを任されるデータベースエンジニアなど、専門性を軸にした働き方もある上に、エンジニアとしての技術知識を活かして営業担当者を支援するセールスエンジニア(プリセールス)というスタイルもある。

「IT業界IIプログラマー」というイメージがあるかもしれないが、掘り下げると役割・専門性などによって、さまざまな働き方が待っているのだ。

エンジニアだけが選択肢ではない。 数字分析力を武器にする仕事も

もちろん、エンジニア関連の仕事以外にもIT業界には仕事はある。先端的な技術分野に挑む研究職、人事・総務などの管理業務、営業や企画など、どの業界でも必要とされる業務だ。その中でも特にインターネット企業に目を向けると、エンジニア以外にも理系の素養を求める仕事を見つけれれる。

例えば、どの業界にもある営業職。ネット業界でバナーなどのWeb広告を売る場合、広告の露出単価、露出された広告がクリックされる単価、最終的に資料請求などの成果に結び付くまでの単価など、すべての指標が明確な数字となって表れる。顧客のためになるプランを理詰めで考えられることが営業としての強みになるので、数字に強い人材が重宝されるわけだ。

そんな事情は、事業会社のマーケティング、Webサイトの開発・改善などを取り仕切るWebディレクター、広告代理店の中でも顧客に提供する商品・サービスの戦略を考えるストラテジストなどの職などにも

当てはまる。数字分析力を武器に、エンジニア以外で活躍する道も用意されているのだ。

IT業界は動きが速く、個人の活躍が大きな影響を及ぼす

このようなIT業界で働く魅力は、どんなところにあるのだろうか。ITエンジニアの教育から人材派遣・紹介までを手掛ける株式会社プリンガの代表取締役 中川富士子氏は、何より業界の動きが速く、その分だけチャンスも多いところが魅力だと話す。「流れが速く、1年前と同じことをやっている人が少ない業界です。所属する会社の大小、自分の年齢にかかわらず、企画力やサービス開発力次第で事業を急成長させることができます。飛躍できるチャンスにあふれているのです」

また、個人のパフォーマンスが企業の業績に与える影響が大きい業界でもある。例えばプログラマーの仕事にしても、できる人とできない人のパフォーマンスを比べると、数倍の違い、時には数十倍の違いが現れることすらあり得る。人よりも短い納期で、クオリティの高いものをミ

ス無く作り出せる能力が、他業界よりも目に見えて現れやすいのだ。

一つの領域を深めるだけでなく幅広い領域の基礎学習を

論理的な思考力と、的確に受け答えできるコミュニケーション能力。IT業界で必要とされるようになるには、ほかにどんな能力が必要なのだろう。

「中国・韓国などのアジアの国からもエンジニアは入ってきています。外国と比べた場合、日本人に足りないのは総合的な基礎学習。システムを構築する時には、ただプログラムを書くだけではなく、サーバなどのハードに関する知識、OSなどのソフトウェアに関する知識、ネットワークなどのインフラ関連の知識なども必要になります。ですが、日本人エンジニアには一つの領域を深く勉強しているのに、ほかの領域は素人という人が多いのです」と中川氏は問題点を指摘する。

特にシステム開発のプロジェクトを取り仕切るプロジェクトマネジャーの職は、数年後に人材不足になると見られているという。だが、そこで

特に必要とされるのが前述のシステムに関する幅広い知識。さまざまな領域に精通し、各領域の専門家をまとも上げていくため、まずは広く基礎学習を済ませておく必要があるのだとか。

IT業界で働くなら

広い視野でキャリアを考えよう

IT業界で働くのなら、どのような心構えが必要か。最後にそんな質問を中川氏にぶつけてみたところ、「どんな会社で何をやりたいか」を見定めた上で会社を選び、自分のキャリアを長期的な視野で考えることだというアドバイスが返ってきた。

「大企業は安定していて、ベンチャーにはチャレンジできる環境があります。反面、大企業はどうしてもベンチャーほどは素早く動かせません。ベンチャーは時代の荒波を乗り越えられるか不確かです。目に付いた問題を批判して転職を考えるのではなく、大企業なら『自分が率先して動いて組織を変えよう』という志、ベンチャーなら『自分が力を付けて会社の経営を支えるんだ』という気概を持ってください。」

また、企業は人材育成を3〜5年の期間で考えています。最初に現場でプログラミングの経験を積ませるなど、当初希望したものではない業務アサインするのの意味があつてのこと。設計などの上流の仕事をする前に、企業がどう動いているのかを理解する必要もあります。ですから、狭い視野で納得できないことがあつたからといってすぐに転職を考えるのではなく、広い視野を持つてキャリアを考えるようにしてください」

中川 富士子

(なかがわ・ふじこ)

ITエンジニアの教育、人材派遣・紹介などを行う株式会社プリンガの代表取締役。同社は特に実践力のあるエンジニアを育てる手腕に優れ、大手SIer、通信会社などからも長年にわたって支持されている。

中川氏は大手メーカー、コンサルタント会社を経て、商品企画、販売促進、法人営業、コンサルティングの職を経験。現在は派遣社員として働く将来が不安定なITエンジニアのため、教育などを通じてキャリアアップを実現する支援活動に取り組んでいる。



特集 理系のための業界研究 メーカー業界の展望

研究開発だけではない。

営業・研究開発・製造が 三位一体のメーカー

理系の就職先といえば真っ先に思い浮かぶのはメーカーだろう。メーカーで新製品・新技術を開発し、特許を取り、世界的な大ヒットを生み出す。そんな夢を持つ人も居るかもしれないが、社会状況が激動している今、考え無しにメーカーへ就職しては、10〜20年後に後悔する事態に陥ってしまうかもしれない。

メーカーで活躍するには、どのような展望を持って就職活動に挑めば良いのだろうか。メーカーの実情を知る人材業界のプロに就職活動に関するアドバイスを求めてみた。

理系の定番、メーカー就職

理系学生にとって定番の就職先とも言えるメーカー。基本的には自社で工場を持って、原材料を加工し、製品を生産、販売するところまでを見ていくことになる。そんなメーカーを業種でいくつかのグループにくくってみると、電気・機械系、素材系、その他、と大きく三つの区分に分けることができる。

まず一つ目は電気・機械系。家電、コンピューター、自動車、電子部品、工作機械、造船まで、幅広い領域をカバーする区分となる。

続いての区分は素材系。鉄鋼、化

学、ゴム、ガラス、セメント、紙・繊維など、ほかのメーカーへの原材料を提供する役割を担っている。

それ以外の区分は「その他」で大きくくくってしまおう。食料品、飲料、化粧品、医薬品などのメーカーをこの区分に入れることができる。

メーカーは営業・研究開発・製造の三位一体

理系でメーカーと言うと、やはり研究開発の仕事が思い浮かぶだろう。だが、メーカーに軸足を置いた人材紹介・派遣を専門とする株式会社キャリアアップロダクションの専務取締役海老名宏昌氏は、「メーカーは営業・研究開発・製造が三位一体」なのだと言明する。

メーカーの仕事は製品の開発まで終わるわけではない。その後、工場で製造して、お客さまに販売してフォローするところまでが仕事。そこで、どんなメーカーでも「製造」というプロセスが重要になり、多くの企業が製造にかかわるポジションで機械・電気といった専攻の学生を求めている。

「研究開発の仕事では、かなりコア

な部分を見ることになります。それに対して製造の現場は、実際のものづくりに携わるところ。納期なども意識しなくてはならないので、頭脳だけでなくタフさも必要です。研究開発だけでなく製造現場を経験することにより汎用的な能力を身に付けられますので、キャリアパスという側面から見ると将来的な可能性を広げる重要な要素になります」

特に市況の影響もあり、最近はその企業もコストダウンを強いられている。製造ラインの効率を良くしてコストを下げられる技術を持っている人材は、時には最先端の研究者と同等に重宝されるのだとか。

また、理系の専門知識は研究開発・製造以外に、営業の現場でも活かせるもの。中には研究開発で技術を身に付けてから、技術営業に転身する人も居るといいます。「営業の経験が無くても、ある程度のコミュニケーション能力さえ持っていれば、メーカーの営業職では専門性を持っていることが何よりも強みになります。若いうちに研究開発職で技術を身に付けて、技術営業に仕事を変える人も居ます。研究開発で培った知識と経験を武器に、お客さまのところまでブレ

センターションできる守備範囲の広い技術者は評価されるのです」と海老名氏はメーカーの事情を明かしている。

今、求められているのは 総合的なバランスの取れた能力

これからのメーカーで求められるのはどのような人材なのだろうか。海老名氏は、「大手メーカーといえども、事業部ごとの好不調が浮き彫りになっている昨今、決して順風満帆とはいかない現状がある。そんな時代だからこそコアな領域での研究開発の能力だけではなく、営業や製造、品質管理、環境対策など、幅広い分野をカバーできる人材が求められている」と語る。

「一つのを突き詰めた人材と同様に、トータルで知っている人材も評価される傾向にあります。若いうちは一つに固執するのではなく、いろいろなことにトライして知識を吸収した方が良いのです。

例えば、メーカーでは経費削減のため、今まで大人数でやっていた業務を少人数でやるようになってきました。そうになると、マネジャーに関

しても机に座って指示だけするタイプではなく、自分でも手を動かして部下を率いていけるブレインクマネジャータイプの人材が求められるようになっていきます。ブレインクマネジャーに必要なのは、総合的なバランスの取れた能力。一朝一夕に伸ばせるものではないので、若いうちから意識してさまざまな業務を経験していくべきでしょう」

メーカー就職なら、企業名でなく 「これから伸びる技術か」で選べ

総合的な能力を身に付けることも重要だが、これからメーカーへの就職を考えるのなら、「これから伸びる技術」を予見して就職先を考えるべきだと海老名氏は訴える。衰退傾向にある技術分野で働くより伸び盛りの技術分野で働く方が、コアな技術が同じなら他業界のメーカーから引き抜かれるようなことも、将来的には考えられる。つまり、企業名で会社を選ぶのではなく、時代を見据えて「これから通用する技術」を持つ会社を選ぶようにするべきだと言うのだ。

そう助言する海老名氏が理系学生

に勧めるのは、「隠れた優良企業を探すこと」。隠れた優良企業は、規模は大きくないかもしれないが、それ故に入社してすぐにプロジェクトに参加でき、開発から製造、営業まで、一貫通貫でかかわれる可能性が高いという。メーカーのビジネスを若いうちから大局的に見られるため、総合的な能力を身に付けやすく、エンジニアとしてのやりがいも感じやすいのだとか。

ただ、特定の技術に強みを持っているだけでなくコアな技術から波及する新しい事業にもチャレンジしようとする企業が望ましいという。

「世界でも大きなシェアを占めている隠れた優良企業は、しっかりと探せば見つかるものです。隠れた優良企業は、教授や就職課の人に話を聞くことで見つけられるかもしれませんが、われわれのようなメーカーの事情に詳しい人材会社に話を聞いて探すのも良いかもしれません。いざれにせよ、ネットでの企業情報や口コミだけに反応するのではなく、泥臭く人と会って話を聞いて見極めていくことが重要なのです。

大手で働くのも、隠れた優良企業で働くのも、どちらが良いかは人そ

れぞれ。ただ、理系でメーカーに入って働こうというのなら、新しい技術を生み出して特許を取り、世界に売り出していくといった大きな夢を持つてほしいですね」

海老名 宏昌

(えびな・ひろまさ)

株式会社キャリアプロダクション 専務取締役。
製造部品メーカーに営業として入社。その後、同社の経営者にまで昇進し、さまざまな業務を通じて「企業は人なり」という言葉の重みを身をもって実感。モノではなく「人」を中心としたサービスを手掛けたという志から、人材サービス業界に進み、株式会社キャリアプロダクションの設立に携わる。

そうした背景から、同社の取引先にはメーカーが多い。経営状況や技術的な強みなどを深く理解して、企業と人材を適切にマッチングさせてきた実績があり、企業・求職者の双方から高く評価されている。

